

調査・設計等分野における平成21年度の総合評価落札方式の実施状況について

国土技術政策総合研究所 正会員 ○大橋 幸子
 前 国土技術政策総合研究所 正会員 笛田 俊治
 国土技術政策総合研究所 正会員 森田 康夫
 国土技術政策総合研究所 深澤 竜介
 (財)国土技術研究センター 正会員 小宮 朋弓

1. はじめに

国土交通省では、調査・設計等分野における品質確保のため、総合評価落札方式による調達を平成19年度から試行、平成20年度から本格的に運用している。それに伴い、国土交通省国土技術政策総合研究所では、総合評価落札方式の普及・拡大、ダンピング防止等、入札契約制度の関する諸課題への確実な対応に資することを目的として、国土交通省における総合評価落札方式の現況を取りまとめている。本稿では、平成21年度における総合評価落札方式の実績データを分析し、運用2年目の実施状況について述べる。

2. 方法

本稿における分析の対象は、平成21年度に、国土交通省の地方整備局および北海道開発局において、総合評価落札方式により調達された、土木関係建設コンサルタント業務（発注者支援業務を含む）、測量、地質調査業務、建築関係建設コンサルタント業務、補償コンサルタント業務とする。空港・港湾は除く。

分析は、契約件数、価格評価点・技術評価点の配点比率の状況、落札者の価格評価点・技術評価点の状況、技術評価点の得点状況、業務成績評定点の状況について行う。

3. 結果

(1) 契約件数

契約件数の状況を、表1に示す。平成21年度の実施状況としては、建設コンサルタント業務等の発注件数は17,394件であり、そのうち総合評価落札方式は3,405件、件数の割合は19.6%である。平成20年度と比べ、総合評価落札方式の件数は、約9倍に増加している。

(2) 価格評価点・技術評価点の配点比率の状況

価格評価点・技術評価点の配点比率の状況を、図1に示す。標準型である1:3は、実施方針と2つ以上の評価テーマに関する技術提案を求めるものである。同じく標準型である1:2は、実施方針と1つの評価テーマに関する技術提案を求めるものである。簡易型である1:1は、実施方針に関してのみ技術提案を求めるものである。平成21年度の実施状況としては、件数で見ると、1:3が5.1%、1:2が58.5%、1:1が36.4%であった。標準型が全体の6割以上となっている。

表1 契約状況

	H19年度	H20年度	H21年度
価格競争	(51.5%) 8,910	(48.7%) 7,578	(45.0%) 7,823
総合評価落札方式	(0.1%) 23	(2.5%) 381	(19.6%) 3,405
プロポーザル方式	(29.5%) 5,112	(44.8%) 6,970	(34.1%) 5,936
特命随意契約	(18.9%) 3,266	(4.0%) 619	(1.3%) 230
計	(100%) 17,311	(100%) 15,548	(100%) 17,394

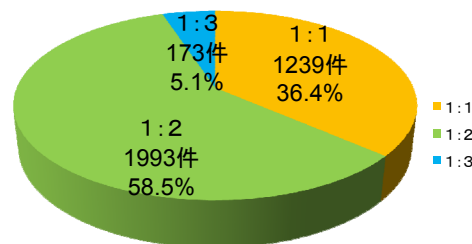


図1 価格評価点・技術評価点の配点比率の状況

キーワード 調達, 入札・契約, 総合評価落札方式, 技術力評価

連絡先 〒305-0804 つくば市旭1番地 国土技術政策総合研究所総合技術政策研究センター TEL 029-864-0932

(3) 落札者の価格評価点・技術評価点の状況

落札者の価格評価点・技術評価点の状況を、図2に示す。落札者について、技術評価点が1位の者と1位以外の者、および価格評価点が1位の者と1位以外の者の別に、件数と割合を示している。平成21年度の実施状況としては、価格評価点が1位の者は1,870件であり、全体の54.9%であった。技術評価点が1位の者は2,870件で、全体の84.3%であった。また、価格評価点、技術評価点とも1位であった者は、1,528件であり、全体の44.9%と最も多かった。技術評価点が1位の者が落札した割合は、価格評価点が1位の者が落札した割合に比べ、高かった。

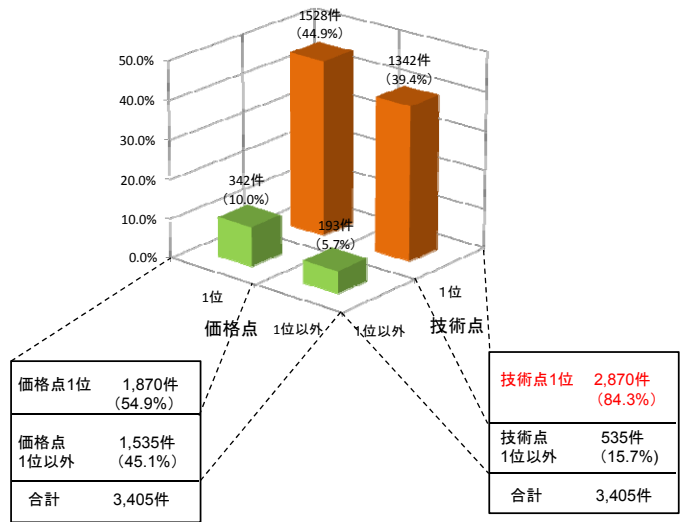


図2 落札者の価格評価点・技術評価点の状況

(4) 技術評価点の得点状況

技術評価点の得点状況を、図3に示す。分析対象は、土木、測量、地質調査の3業種である。落札者(評価値1位)の技術評価点の平均は、60点満点中46.6点であった。評価値2位、3位の技術評価点の平均は、それぞれ43.6点、41.7点であった。落札者と、評価値2位、3位の技術評価点の平均を比較すると、その差はそれぞれ3.0点、4.9点であった。

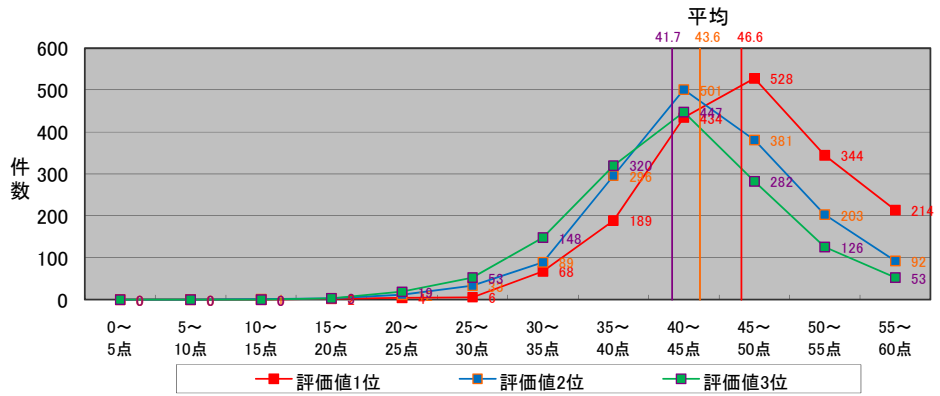


図3 技術評価点の得点状況

(5) 業務成績評定点の状況

調達方式別の業務成績評定点を、図4に示す。全業務の平均は、74.5点であった。プロポーザル方式による業務の平均は75.4点、総合評価落札方式による業務の平均は75.1点、価格競争による業務の平均は73.6点であった。

そのうち、総合評価落札方式による業務について、価格評価点・技術評価点の配点比率別の業務成績評定点を、図5に示す。標準型である1:3、1:2の業務については、それぞれ75.5点、75.3点であった。簡易型である1:1については、74.7点であった。

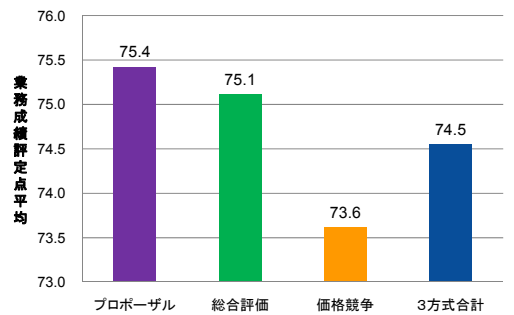


図4 調達方式別の業務成績評定点の状況

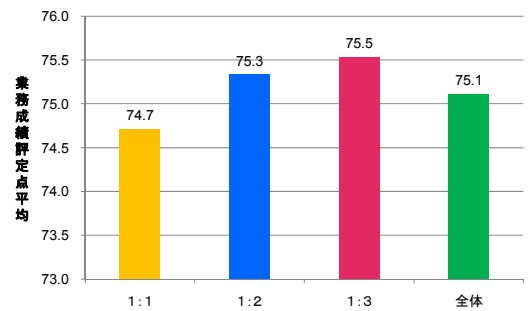


図5 配点比率別の業務成績評定点の状況

4. おわりに

本稿では、調査・設計等分野における平成21年度の総合評価落札方式の実施状況について分析した。平成21年度に、総合評価落札方式は大きく拡大し、競争参加者の技術的能力が契約にあたっての審査の要素として定着した。今後も、調査・設計等業務の品質確保のため、引き続き入札・契約の実施状況を注視しつつ、分析を続けていく予定である。